

1 調査日 令和7年1月29日（水）～31日（金）

## 2 調査の概要

1月29日（水）

### （1）ロボテラス（神奈川県藤沢市）

ロボテラスは神奈川県内の10市2町が2013年2月に国から指定を受けた「さがみロボット産業特区」内において、生活支援ロボットの普及および啓発を目的として開設された。

ロボットメーカーと協力し、介護・リハビリ部門のロボットやコミュニケーション部門のロボット、移動支援部門のロボット、ヒーリングパートナー部門のロボットなど、様々なロボットを展示し先端技術を体験できる場所となっている。

本県では滋賀県産業振興ビジョン2030に基づき産業振興施策の推進に取り組んでおり、そのコンセプトや目指す姿として新しいテクノロジーやサービスを活用しての最適社会や、技術革新、生産性向上による新たな価値の創出などを掲げていることから、ロボテラスにおいて産業振興に向けた先端技術について調査を行った。



1月30日（木）

### （2）独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター（神奈川県横須賀市）

独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センターは、昭和38年に日本で初めてアルコール依存症専門病棟を設立し、現在ではアルコール依存症の他に、ゲーム障害やギャンブル依存症などの精神疾患を対象とした専門治療を行っている。

久里浜医療センターは、平成29年4月からの厚生労働省の依存症対策全国拠点機関設置運営事業に基づき、アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症、ゲーム依存症の依存症全国拠点機関としての依存症対策全国センターに指定された。

依存症対策全国センターの主な役割は、依存症に関係する医療機関や民間団体の連携の促進、マンパワーの育成、情報発信、調査研究事業であり、このような活動を通じて、依存症の発生予防、早期発見・早期介入、依存症からの回復支援、家族に対する支援などへ

の貢献を図っている。

本県では令和6年度から滋賀県依存症総合対策計画に基づき、依存症対策を総合的かつ計画的に推進しており、また、本委員会では、医療体制の充実とからだところの健康づくりの推進を重点審議事項の一つに掲げていることから、独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センターにおいて依存症対策と対策において求められる支援について調査を行った。



### （３）公益財団法人アイメイト協会（東京都練馬区）

公益財団法人アイメイト協会においては、視覚障害者の社会参加を促進し、もって視覚障害者福祉の増進に寄与することを目的に1957年から事業が開始された。

同協会は視覚障害者の歩行指導ならびに日常生活訓練、歩行指導員の養成、盲導犬の育成訓練および研究、視覚障害者や盲導犬に関する啓発活動、その他の目的達成に必要な諸事業により共生社会の実現に寄与している。

本委員会では、地域福祉の推進と共生社会づくりを重点審議事項の一つに掲げていることから、公益財団法人アイメイト協会にて盲導犬育成などの現場での取組を調査した。





#### (4) Tokyo Innovation Base（東京都千代田区）

東京からイノベーションを起こすことを目指し、国内外からのスタートアップやその支援者が集い交流する拠点としてTokyo Innovation Baseが2024年5月、東京都により構築された。

国内最大級のスタートアップ支援拠点であるTokyo Innovation Baseでは、スタートアップの成長支援や企業ネットワークの形成・拡大を図るための3Dプリンターをはじめとした約2千点の機材の無償提供、一般消費者向けのプロダクトや食品を試験的に販売する場の提供、国内外のスタートアップに向けて、法人設立等に必要な行政手続支援や外国企業向け支援のための総合窓口の設置などを行い、拠点としての取組を進めている。

本県では、商工観光労働部の重点施策として産業の創出と中小企業の活性化推進を掲げ、オープンイノベーション推進事業やスタートアップ創出事業を進めていることから、Tokyo Innovation Baseにおいてイノベーション拠点としての取組について調査を行った。



1月31日（金）

#### (5) 銀座NAGANO（東京都中央区）

ここ滋賀（東京都中央区）

銀座NAGANOは首都圏と長野県をつなぐ情報発信拠点として開設され、2024年10月に10周年を迎えてのリニューアルオープンがなされた。

長野県の逸品を豊富に取りそろえたショップや県内各地のワイン、日本酒のテイスティングスペース、料理をしながらのイベントなどの食を通じた体験に特化したオープンキッチンを含めたスペース、長野県への観光や移住、二拠点生活に係る相談に専門家がワンストップで対応する窓口などを設け、情報発信に努めている。

本県の情報発信拠点ここ滋賀は平成29年度に開設され、今年度で8年目を迎える。コロナ禍を経たライフスタイルや働き方の変化に加え、人口減少による活力減退が今後さらに見込まれる一方で、東京への一極集中が加速的に進んでいることなど、ここ滋賀を取り巻く環境が大きく変化している上、現建物の賃貸借契約が令和8年度末までとなっていることから、令和9年度以降のここ滋賀の在り方を検討している。

先に 10 周年を迎えリニューアルオープンした銀座NAGANOにおいて、リニューアルオープンに際しての情報発信拠点としての在り方を調査した上で、ここ滋賀において今後の滋賀県の情報発信拠点の在り方を調査した。

